



TITLE:

質疑欄

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑欄. 天界 1921, 1(5): 78-78

ISSUE DATE:

1921-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159553>

RIGHT:

質 疑 欄

(十二) 銀河系の直径は如何程? (U)

〔答〕我々の見て居る星は大體銀河の平面の方向に偏平なレンズ形の空間内に分布して居ますが、ニュートン氏の名著「星」には半径三千三百光年とし、ケルビンの考もそれ位、ヘルツスブルンク氏は或種の星の分布から銀河の方向に半径五千光年位で銀河と直角方向には其十分の一と見積つた。近頃シャプリー氏の研究によれば、球状星團の分布に關しても銀河と云ふ面が特殊の位置を占めて居る様ですが、球状星團の様な遠方の者は所謂「銀河系」の名前の中には、入れないことにすると、右の値を直径にして六千六百光年又は一萬光年となります。(KK)

(十三) 小遊星に對して大遊星といふ語がありますか(X)

〔答〕あります。しかし此の大遊星 (Major Planet) といふ言葉は簡單に遊星の中で小遊星以外のものを總てを指すものとは斷言出来ません。今までの習慣によれば大遊星とは木星土星天王星海王星の四つのみを意味する場合が多いので——それで小遊星に

對しての語とのみは見られません。

一體遊星を分類する言葉が種々あります。

序でに一言致しましょう。先づ

〔上等遊星 火、木、土、天、海の五星
下等遊星 水、金の二星

これは我が地球上から觀ゆる狀況によつて分けたもので、上合下合のみがあつて衝のない遊星を下等遊星と稱し、他は上等遊星と稱するのです。それで一般の小遊星九百餘箇も、言はゞ皆此の場合には上等の部に入るべきなのです。此の分類法では地球は何れにも屬しません。次に

〔地球的遊星 (Terrestrial Planet) 水、金、地球、火星の四星、
非地球的遊星 (Non-terrestrial Planet) 木星、土、天、海の四星

これは星の物理的性質から考へて、比較的地球に似たものを前者とし、否らざるものを後者としたのです。小遊星は其性質はむしろ衛星と同じ程度のものであるべきで、此の場合には地球的にも非地球的にも入りません。次に

〔大遊星 (Major Planet) 水、金、地、火、木、土、天、海の八星
小遊星 (Minor Planet) 火星、木星間の微星

この意味の大遊星なる語は殆んど使はれま

せん。其の理由は前述の通りで、含む内容に誤解が起り易いからです。小遊星のみは此の意味で使はれます。

大に對する小、上に對する下といつたやうな對照的の意味でなく唯言語其のものゝ意味を便宜上左の如く用ふる都合の好いことが多くあります

下等遊星 (Inferior Planet) 水星と金星
地球的遊星 (Terrestrial Planet) 地球と火星
小遊星 (Minor Planet) 小遊星
巨遊星 (Giant Planet) 木星と土星
遠距離遊星 (Distant Planet) 天王星と海王星

左に表を掲げて見まう、(Y)

金星	水星	地球	火星	木星	土星	天王星	海王星
下等遊星	地球的遊星	地球的遊星	地球的遊星	地球的遊星	地球的遊星	地球的遊星	地球的遊星
巨遊星	遠距離遊星	小遊星	小遊星	小遊星	小遊星	小遊星	小遊星

◎訂正 前號第五九頁下段左より九行目 (岡山縣圖書館藏) は (岡山縣社會課藏) の誤